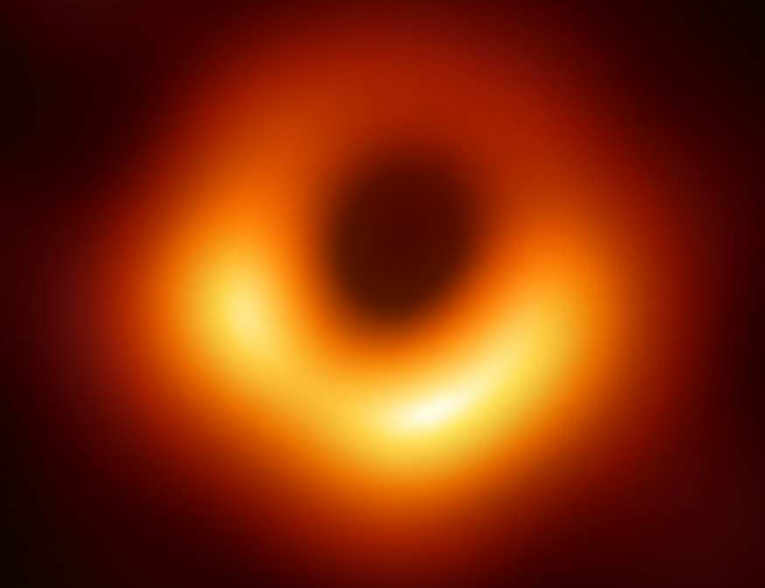


聖書研究 光は暗闇の中で輝く



真理がわれらを自由にする



 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

東京本館のホールには、国立国会図書館法前文の一部である「真理がわれらを自由にする」という言葉が、刻まれています。日本国憲法制定時の憲法担当国務大臣でもあった初代館長金森徳次郎の筆跡によるものです。

この言葉は、国立国会図書館法案の起草に参画した羽仁五郎議員(参議院図書館運営委員長)がドイツ留学中に見たルプレヒト・カール大学ハイデルベルク大学の銘文を基に創出したもので、その銘文は、新約聖書(ヨハネによる福音書8:32)「真理はあなたたちを自由にする」(ギリシア語で Η ΑΛΗΘΕΙΑ ΕΛΕΥΘΕΡΩΣΕΙ ΥΜΑΣ ΗΕ ΑΡΕΤΕΙΑ ΕΛΕΥΘΕΡΩΣΕΙ ΥΜΑΣ)に由来している。

イエスは**真理**の創始者です。**真理**は、**神の心**から生じます。神は**真実**の源、あらゆる**真理**の源です。
 神の律法は、**神のみこころの啓示**であり、**神のご品性の写し**である

God's will

| | | |
|---|-------------|--|
| S | ヨハネによる福音書 | 8:32 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」 |
| S | ヨハネによる福音書 | 14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。 |
| S | エフェソの信徒への手紙 | 1:13 あなたがたもまた、キリストにおいて、 <u>真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。</u> |
| S | エフェソの信徒への手紙 | 4:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。 |
| S | エフェソの信徒への手紙 | 6:13 だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。 |
| S | エフェソの信徒への手紙 | 6:14 立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、 |
| S | エフェソの信徒への手紙 | 6:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。 |
| S | テモテへの手紙Ⅱ | 2:15 <u>あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。</u> |

キリスト教の大迫害

303年、**ディオクレティアヌス**皇帝(在位:284年11月20日~305年5月1日、286年4月1日~305年5月1日まで、西方正帝マクシミアヌスと共治)は**最後で最大のキリスト教迫害**を行った。

自らをユピテル神(ローマ神話の主神、ゼウス)になぞらえ、神としての**皇帝崇拜**と、伝統的な**ローマの神々への祭儀への参加**をキリスト教徒に**強要**した。

①キリスト教関係書物の焼却、②教会財産の没収、③キリスト教徒を円形闘技場に引き出し、ライオンに食わせる**公開処刑**、④**聖書(原型となる書物)の没収焼却**などを行い、キリスト信仰自体を根絶しようとした。

迫害は、その後も続けられ、エジプトや小アジアで多くの教徒が殉教した。



サタンの手口(戦略)変更

それでも、キリスト教徒の増加を抑えることができなかった**コンスタンティヌス1世**は、ついに313年、**ミラノ勅令**を発して今までのやり方を止め、キリスト教の公認に踏み切った。

➡近未来に起こる、北の王「ローマカトリック」による迫害 = **日曜休業(遵守)令**

コンスタンティヌス1世、キリスト教に改宗、ローマ帝国は、AD313年に**ミラノ勅令**を公布、**キリスト教を公認**（キリスト教以外は不許可）した。 **サタンの戦略変更**

→**ローマ・カトリック**の始まり、国家とキリスト教が結託し、他宗教を迫害

→理由1：キリスト教に改宗したことで、キリスト教保護のために勅令を公布した。

2：キリスト教を敵にするより、保護した方が得策であると考えた。

→キリスト教の国教化に伴い、教会と教会指導者、信徒に多大な特典を与え、人々から歓迎される宗教とした。

→ばらまき政策の実施→**教会の墮落、世俗化、聖職売買**

→ギリシア（ローマ）神殿化

→太陽神ミトラス教の豪華絢爛な儀式と制度を祭司服に取り入れた

↓
ローマ教皇庁の司祭たちの服装等

→コンスタンティヌス1世は、**ローマ教皇**（=ローマ宗教の大祭司=ポンティフェクス・マクシムス[ラテン語: Pontifex Maximus=最高神祇官]）となることで、**教会の大小のすべてに直接、介入、政教合同の位置に立つようになる。**

写真はイメージです



☞徒言行録20:30

また、(サタン以外に)あなたがた自身の中(=身内)からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。

☞背教の予告(テモテへの手紙一4:1~5)

しかし、“霊”は次のように明確に告げておられます。

終わりの時には、惑わす霊と、悪霊どもの教えとに心を奪われ、信仰から脱落する者がいます。このことは、偽りを語る者たちの偽善によって引き起こされるのです。彼らは自分の良心に焼き印を押されており、結婚を禁じたり、ある種の食物を断つことを命じたりします。しかし、この食物は、信仰を持ち、真理を認識した人たちが感謝して食べるようにと、神がお造りになったものです。というのは、神がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。

神の言葉と祈りとによって聖なるものとされるのです。

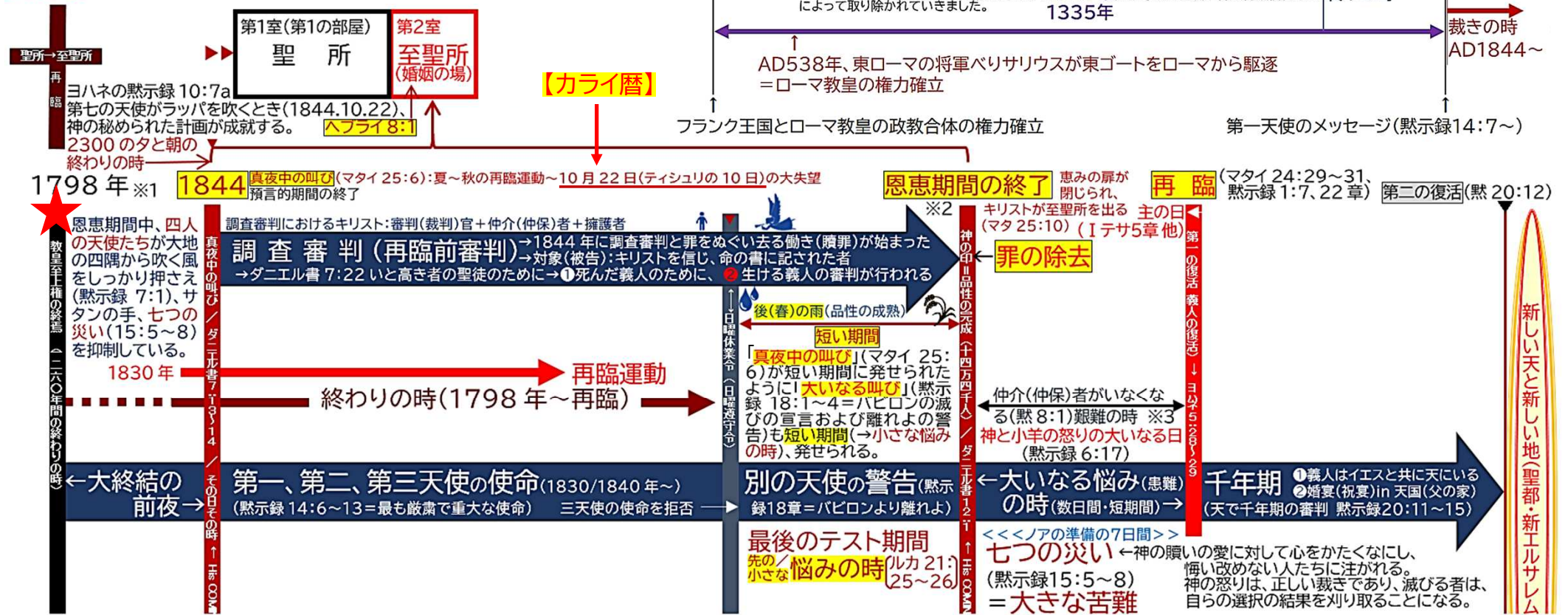
★異端、異教等が巧妙な手口で気がつかないほど少しずつ教会等(教理)に入る！

➡迫害の種：①教会内部、②外部の異端の教え(偽教理)

➡気付いた時には、「獣の刻印」(消せない刻印)を押され、戻れなくなる！

☑ 神の裁き：①義人の救い/幸福 (主の裁き) ②悪人の滅び/敗北
the judgement of God / his judgements

【略図】神の救いの計画



証の書「豊かな人生の秘訣 第22章 人生の収穫」

☞花婿が来たのは、真夜中であつた。最も暗い時であつた。そのように、キリストがおいでになるのも、この地上歴史の最も暗黒の時である。……聖書は、この時のことをさして、サタンが全力を傾け、「あらゆる不義の惑わし」をもって働くといっている（Ⅰテサロニケ 2:9、10）。この最後の時代に暗黒、様々の誤り、異端、まどわしなどが急速に増加したことを見ても、明らかにサタンが働いていることを知ることができる。サタンは、ただ世俗の人々を捕えるばかりでなくて、わたしたちの主、イエス・キリストの教会であると称しているものをもあざむいている。

☞大背教は、一寸先も見えない真夜中の暗黒のようになることであろう。これは、神の民にとっては、試練の夜、嘆きの夜、真理のために迫害を受ける夜となる。しかし、その暗黒の夜から、神の光が輝くのである。神は「やみの中から光」が照りいであるようになさつた（Ⅱコリント 4:6）。「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は『光あれ』と言われた。すると光があつた」（創世記 1:2、3）。そのように、靈的暗黒の夜に、神は「光あれ」と仰せになる。神の民には、「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼつたから」と言われる（イザヤ 60:1）。

☑ 聖書は、神の御心を誤りなく啓示したものであり、人類救済のための天の計画を示しています。「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ」ているので、「人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」（Ⅱテモ3:16）。

☑ 重要な真理はみな、御言葉の中に啓示され、教えられ、強調されています。神の言葉が、神の言葉だけが、すべての聖なる真理を理解するための最終的かつ究極的な基準でなければなりません。



- ☞ 聖書は、神の御心を誤りなく啓示したものであり、人類救済のための天の計画を示している。よって、聖書全体を神の言葉として受け入れなければならない。
- ☞ 重要な真理は、神の言葉の中に啓示され、教えられ、強調されている。
- ☞ 神の言葉だけが、すべての真理を理解するための最終的かつ究極的な基準でなければならない。

Let there be light !

ヨハネによる福音書5：39

あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。
ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

ヨハネによる福音書5：46

あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。
モーセは、わたしについて書いているからである。

Photo:H.Taniguchi

自分の魂の救いにかかわる問題である以上、
人は自分で聖書を探求しなければならない！
～希望への光P.1890、各時代の大争闘下 P.364～



(聖霊の助けがない)人間の論理的思考力だけでは、(人知を超えた)聖書の神聖な真理を発見することはできない。

➡私たちは、神の言葉を真理と道徳の最終的な裁定者とし、それに付き従うことが重要である。

～人類のあけぼの 第3章 天地創造の1週間～

神を無視した作り話を人々に信じさせることが、サタンの計略の1つである。

というのは、そうすれば、きわめて明確に示されている神の律法をあいまいにし、人々を大胆に神の政府に反逆させることができるからである。

彼(サタン)は特に第4条を攻撃する。それは、この戒めが、生ける天地の創造主を明示しているからである。

創造のわざを、自然現象の結果であるというふうに説明しようとする試みが絶えず行なわれていて、クリスチャンと称する人々でさえ、聖書の明らかな事実に対して、人間の論理を受け入れている。多くの者が、預言、特にダニエル書と黙示録の預言の研究に反対し、これらの書は、不明瞭で理解しにくいと言う。ところが、この同じ人々は(→多くの者が)、モーセの記録とは反対の地質学的推論(→聖書から離れた人間の論理的思考)を熱心に信じ(ている)。

コリントの信徒への手紙二4:4

この世の神(=サタン)が、信じようとはしないこの人々の【心】の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の【光】(→神や神の真理)が見えないようにしたのです。

In whom the god of this world hath blinded **【the minds】** of them which believe not, lest **【the light】** of the glorious gospel of Christ, who is the image of God, should shine unto them.

この世の神は、神の似姿であるキリストの輝かしい福音の光が彼らに輝かないように、**信じない人々の心を盲目にしたのです(拙訳)。**

νόημα *nóēma, no'-ay-mah*; i.e. purpose, or (by implication) the intellect, disposition, itself:—device, mind, thought.

目的、または(暗黙的に)知性、性質、それ自体、つまり装置、精神、思考。

φωτισμός *phōtismós, fo-tis-mos'*; illumination (figuratively):—light.

サタンの主な働きは、人の心を盲目にしたり、暗くしたりすることである。サタンは、神の言葉を学ぶことから人を遠ざけ、肉体と魂への過剰な行いによって心の力を狂わせ、この世の事で心を完全に支配し、高慢と自己顕示欲に訴えることによって、これを行うのです。福音は、**サタンの極悪非道な陰謀と欺瞞を暴き、人が暗闇から光への道を見出すことのできる唯一の手段です(SDA聖書注解第6巻P.854、英文)。**